

平成 20 年 4 月 21 日  
健康福祉事業本部  
福祉部高齢社会対策課

### 検討課題（テーマ）「高齢者施設のあり方」について（確認）

#### 1 「第 3 期練馬区高齢者保健福祉計画」個別事業の進捗状況

※施策分野 V 『保健福祉基盤整備と住まいの支援』中、施策 2 「高齢者センター・敬老館の活用、整備」のみ抽出

掲載頁	個別事業	平成18～20年度の整備量・事業量等	平成18年度分実績	平成19～20年度の見込み
55	高齢者センター・敬老館の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者センター3館 延べ利用者数 148,000人／20年度</li> <li>・敬老館11館 延べ利用者数 257,000人／20年度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者センター3館 延べ利用者数 143,638人／18年度</li> <li>・敬老館11館 延べ利用者 214,597人／18年度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者センター3館 延べ利用者数 148,000人／20年度</li> <li>・敬老館11館 延べ利用者数 225,000人／20年度</li> </ul>
56	高齢者センターの整備・敬老館の改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者センター3館、4か所目の高齢者センター整備のための準備 ※4か所目の高齢者センターは22年度竣工予定</li> <li>・敬老館の計画的な改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者センター3館</li> <li>・敬老館2館 大規模改修設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者センターの整備 関越高架下の利用計画を検討していく中で、周辺施設の再配置を含め検討していく(企画部)</li> <li>・東大泉敬老館・西大泉敬老館の大規模改修／19年度</li> </ul>

## 2 委員意見の整理（第2回および第3回懇談会で出された意見を整理したもの）

### (1) 高齢者センター・敬老館事業の方向性

- 生きがい作り、社会参加（地域貢献ではなく、自らの知識研鑽としての）の場としての機能は重要である。今後はさらに、利用者数の増をはかっていくべき。
- 自らの楽しみを提供する機能だけでなく、地域貢献につながる活動の拠点としての役割を果たすべきではないか。

#### （個別事業）

- ① 若年層との世代間交流事業について、高齢者センター等で既に実施しているがさらに強化できないか。
- ② 施設の存在そのものの積極的周知をはかるべきだ。まだまだ、施設自体の認知度が低いので、年金説明会等。これから高齢期を迎える人が来そうな場所で、積極的に周知をはかってはどうか。
- ③ 施設を利用する人の中から、施設の運営に携われるような人材を育成する事業を行うべきだ。結果、地域による自主性のある運営へとつなげられれば良いと思う。

### (2) 利用者本位の施設のあり方

- 新規利用者が来館しやすくする仕組みづくりが求められている。
- まだ利用した事のない人はもちろん、既存の利用者の中に対しても、名称等親しみやすい雰囲気作りが大切である。

#### （個別事業）

- ① 古い高齢者施設では、利用者が固定し、占有する雰囲気となっている。これにより、新規利用者が定着しくくなってしまうのではないか。
- ② 「敬老館」、「高齢者センター」という名称に抵抗感を覚える方は多い。検討の余地があるのではないか。